ジェンダー研究所
2018年度事業報告書によせて

グローバル女性リーダー育成研究機構長／理事・副学長　　佐々木　泰子

ジェンダー研究所は、40年の歴史を持つお茶の水女子大学の代表的な研究所です。優れた研究者を擁し、常に日本のジェンダー研究を牽引する先端的研究に取り組んでまいりました。2018年度もまた、時宜に適った研究プロジェクトを遂行し、国際シンポジウムや学術セミナー、特別招聘教授プロジェクト、学術雑誌の刊行、教育プログラムの実施、研究所成果の発信等に精力的に取り組んできました。

加えて、2018年度は、ジェンダー研究所のこれまでの成果を生かし、グローバル女性リーダー育成研究機構を構成するもう一つの研究所であるグローバルリーダーシップ研究所との共同企画運営による国際シンポジウムも開催いたしました。2018年6月30日開催の「女性政治リーダーはいかにして『育つ』か？」と、2019年1月12日開催の「ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像」の２つの国際シンポジウムです。会場には、研究者のみならず、学生や女性リーダーの養成に取り組んでいる多くの方々の参加があり、熱心な議論が交わされました。

また更に、グローバルな学術雑誌を目指し『ジェンダー研究』を刷新したほか、国際共同研究も進めました。特に、ノルウェー科学技術大学ジェンダー研究センターとの共同プロジェクトは、ノルウェー・リサーチカウンシルの助成金に採択されるなど、従来の国際共同研究にとどまらず、国際研究拠点としての本学の役割と貢献が期待される契機となりました。

ところで、2018年度は、グローバル女性リーダー育成研究機構が設立されて4年目となり、事業活動のひとつの節目となる中間評価を実施いたしました。学内委員に加えて、学外から江原由美子先生（横浜国立大学教授）とリンダ・グローブ先生（上智大学名誉教授）を評価委員としてお招きし、これまでの事業成果を評価するコメント及び今後に向けたご提言をいただきました。委員の先生方からいただいたジェンダー研究所へのご期待を励みとして、所員一同、2019年度も意欲的に研究を展開させていく所存です。

年度末に、発足以来機構長を務めてきた猪崎弥生先生が退職されました。この場を借りて先生に感謝申し上げ、微力ながら、ジェンダー研究所が積み重ねてきた実績をさらに発展させ、なお一層社会に資するよう取り組んでいく決意です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ジェンダー研究所2018年度の活動を振り返って

ジェンダー研究所長　　石井クンツ　昌子

研究所設立4年目である2018（平成30）年度も、所長以下、専任教員、研究員、研究系スタッフ、事務系スタッフが協力して研究プロジェクト推進や国際シンポジウム等開催に積極的に取り組みました。ジェンダー研究所は、安定した組織運営を基盤に、多くの事業成果を挙げており、2018年度に実施された中間評価でもポジティブなコメントをいただくことができました。

本研究所のメインの事業である特別招聘教授プロジェクトでは、ノースカロライナ大学のバーズレイ教授とジュネーブ大学のガルディ教授をお招きして、非常に有意義な国際シンポジウムやIGSセミナーを開催していただきました。バーズレイ教授には本学の大学院生の授業も担当していただき、論文指導や英語の指導をしていただき、大変好評でした。ジェンダー研究センター時代からタイトルを引き継ぎ刊行している『ジェンダー研究』は、質の高い学術雑誌転換後の第1号を発刊し、国内外から高い評価を得ることができました。

新しい国際的連携関係の構築のためにノルウェーリサーチカウンシルに申請していたノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センターとの共同研究プロジェクト「ジェンダー平等/ダイバーシティ：ノルウェー・日本共同研究」が採択され、研究と教育に関する交流が本格的に始まりました。本学のジェンダー研究所からは石井クンツ（所長）、申キヨン准教授（専任教員）、小玉亮子教授（運営委員）がコアメンバーになり、大橋准教授、仙波・吉原RF、佐野講師（グローバルリーダーシップ研究所）、松田RF（国際教育センター）の計8名がプロジェクトに参加します。2019年9月には本研究所のメンバーがNTNUを訪問してワークショップなどに参加する予定です。これらの事業の他にも、昨年度から始まったジェンダー研究所の前身である女性文化資料館創設（1975年）以来の事業記録の電子化も着実に進んでいます。研究所の歴史の記録を財産として保存し活かしていくことも、拠点形成のための重要な事業と言えると思います。

グローバルリーダーシップ研究所との協働活動実績も、2018年度は2つの大規模な国際シンポジウム企画・開催を通して、着実に積み重ねられました。6月に開催されたシンポジウムでは女性の政治参加に注目して、韓国の現職国会議員の陳善美氏と野田聖子議員をお招きして政治面での女性参画の必要性について学びました。また、2019年1月にはグローバル女性リーダー像について、韓国の金惠淑梨花女子大学学長、アンネ・ボルグNTNU副学長、本学の室伏きみ子学長の講演とパネルディスカッションを通して女性のリーダー像についての知識を深めました。これらのシンポジウムは本学の学生をはじめ、他大学の学生や一般の方々にもご参加いただきましたが、とても貴重なシンポジウムであったことは、参加者からいただいた感想コメントから明らかです。

本報告書を通して、これらの研究所事業の詳細をご理解いただけることと思います。研究所事業の充実は、所員の努力のみによってではなく、学内そして学外の各方面からの協力を得て実現されています。ここに、心からの感謝の意を表します。